

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 2月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473100562		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 蛍の家		
所在地	広島県呉市倉橋町石持154番地1号		
自己評価作成日	令和6年1月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473100562-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年1月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>海が見え、みかん畑があり自然に囲まれたのどかな場所に当施設はあります。家庭的で落ち着いた雰囲気大切に、自分のペースで生活していただけるよう支援しています。また、季節を感じていただけるよう一年を通して季節行事を行っており、暖かい日は散歩にでかけ、体操をしたり、歌を歌ったりと楽しんでいただいています。 ご入居者の思いを尊重し、困りごとがあれば傾聴して、その人らしく生活できるよう、一人ひとりに寄り添った個別ケアに努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>昨年11月からの新体制に伴う取り組みとして馴染みの関係継続の支援がある。事業所は訪問しやすい事業所・地域との絆を重視し、現在のコロナ禍による面会制限の中、家族の要望に基づき、窓越しや感染対策を実施して玄関先での面会が実現し、家族との一時外出等、個別外出支援にも取り組んでいる。又、コロナ禍により生活空間が狭まり、その閉じこもりがちな生活の弊害も考慮して利用者を理解し、役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。事業所内で出来る活動を工夫し、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し今出来る事に着目し自信に繋がる事を大切にしている。利用者の強みを活かし野菜の植え付けから収穫、調理まで一連の仕事を通した達成感を支援している。</p>

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	4月に全体ミーティングをし、職員全員で介護理念をつくりました。朝・夕の申し送り時に唱和することで理念の意識付けをし、利用者の訴えや、利用者の世界観を否定せずに傾聴することを努めている。	昨年改訂した事業所理念を実践上の道標として掲示、申し送り時に唱和して周知に努めている。隔月の申し送り時に職員と利用者への対応や状態変化等を振り返る中で理念の実践状況を確認している。又理念をもとに具体的な年間行動目標を定め、年度末の全体会議で達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス感染の為、外出機会が減り、交流ができていない。	コロナ禍の緩和で利用者は日頃から散歩や近隣の野菜市場での買い物で地域住民と挨拶を交わしたり、季節のドライブ行事や家族と受診等の一時外出で地域に出ている。又、家族の面会や運営推進会議の委員でもある民生委員から地域情報の提供を受ける等、地域と相互交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流や地域貢献はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス感染の為、今年度も運営推進会議ができていない。関係者に資料送付、職員間で会議内容の確認をしている。	会議は併設の小規模多機能型居宅介護と合同で隔月の書面会議となっている。利用者・家族代表・自治会長・民生委員・警察署員・市福祉保健課・地域包括支援センター職員等に会議資料を送付し、運営状況を報告している。参加出来ない家族との情報共有のため議事録を送付している。	多様な職種の関与はあるが、関係委員への意見・質問依頼等もなく、事業所運営に関する意見交換が不十分である。報告項目の再検討や事故等の原因・対策の分析等、今後は地域の関係者から意見・提案が出しやすくなる会議資料や仕組み作りにより、効果的な会議の展開を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	呉市倉橋支所の担当者、介護相談員の方と話しあい、助言をいただきサービス向上に努めている。	現在は市町担当者・地域包括支援センター職員に運営推進会議資料を送付し情報共有をしている。市町担当者とは日頃から相談や報告を行い、また生活保護の利用者に対し生活課職員の定期的な訪問もあり、関係構築を図っている。介護相談員便りを参考にケア実践に活かす様努めている。	

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所研修を行い、身体拘束による弊害を理解し意識付けをしている。玄関の施錠は日中行っておらず、敷地内の施設を自由に行き来出来る様にしている。	年2回の身体拘束委員会・研修会等を通して職員は拘束をしない必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアについては職員間で注意したり、管理者が気づきを促している。日中は玄関を施錠せず見守り、居室のベッドの脚元に鈴を設置する等の工夫もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所研修を行い虐待の種類、行為を学び虐待が見過ごされることのないよう一人ひとりが注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については事業所研修を行い職員全員が理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には利用者、ご家族にしっかりと説明をし、理解を得られてから契約を行っている。不明や疑問点があれば気軽に聞いていただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や面会が難しい時は積極的に電話連絡をし意見や要望を伺い運営に反映させている。	利用者の要望は普段の会話を通じて把握している。家族とは窓越しや玄関先での面会時・介護計画見直し時・電話連絡時・メール・運営推進会議等で職員は意見を把握し、申し送りノート等で情報共有をしている。事業所には迅速な対応に努める体制はあるが、要望等は特に出していない。	

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎週月曜日の法人全体の朝礼で各部署からの提案、意見を取り入れている。事業所内での朝・夕の申し送り時、それ以外にも必要に応じて個別で意見や提案を聞き運営に反映させている。	申し送り・担当者会議・ユニット会議等で出た職員の意見・提案を管理者が集約して週1回法人本部の代表者会議で検討している。管理者は随時職員と話す機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を取っている。職員提案により嚥下状態に合った食事形態に変更した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自向上心を持って働けているかを知るために、スタッフ間での開けた環境作りをし、個人個人の条件に応じていけるように努めている。必要に応じて個別にミーティングができる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修へ積極的に参加できるよう努めている、また要望があれば研修に参加できる環境をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	オンライン研修への参加、外部研修での意見交換や情報収集を行い、質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始までに生活歴や要望を聞き、不安をできる限り取り除けるようにしている。また、職員全員がそれを把握し本人が安心できるための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族等の思いや不安を取り除けるよう十分に聞く時間を設け関係づくりに努めている。また、早急な対応を求められた場合にも柔軟に対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	併設されている事業所やその他のサービスの説明も含め、必要なサービスを提供できるよう柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者一人ひとりにあったコミュニケーションを図り、できることを見極め、気持ちを理解できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要に応じて連絡させて頂いたり、月に一度、蛭便りを送付し、日々の様子を知っていただけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出支援はできなかったが、面会は希望があれば受け入れていた。	訪問しやすい事業所・地域との絆を重視し、現在は感染対策を実施した上で玄関先等での面会が可能となっている。又、手紙・電話のやり取りの他、近隣ドライブや家族協力のもと受診・一時帰宅・外食等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々のレクリエーションやイベント等で交流の機会を設け、無理のない関わり合いや、併設する施設も気軽に行き来できるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してもご家族の相談や希望によりそえるよう、他のサービスの利用も積極的にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中から一人ひとりの思いや希望を聞き、表情などからも声なき声をききとれるよう努めている。	契約時の聞き取りや家族情報をもとに利用者の意向の把握に努め、職員は利用者と一緒に話す時間を作り、その行動を理解するように努めている。その情報は申し送りノートで共有している。介入が必要な状況の背後にある利用者の想いを探り、状況に適合する様本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族からこれまでの生活を可能な範囲で伺い、その人らしく、これまで通りの生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの過ごし方や何がしたいか、表情をみたり、できる限りのことを無理なく体調を考慮しながらその人の能力を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議にて要望を聞き取り、本人や家族の要望、思いを尊重し介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画原案を担当者会議で検討し、面会時等に家族の同意を得て本案としている。3ヶ月毎に計画作成担当者がモニタリング、半年を基本に計画を見直している。立案の視点として馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>朝・夕の申し送り時で利用者の状態や変化、細かい気づきを報告し、職員全員で情報共有している。また、変化があれば都度介護計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その時々々のニーズに沿った支援を本人、ご家族等で積極的に話しあい、柔軟に対応できるよう心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>外出支援がなかなか出来なかったが、買い物支援のできる限り地域を利用するようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体法人の医療機関だけでなく、適切な医療を受けられるよう、本人やご家族の要望を聞き納得した上で適切な医療をうけられるよう支援している。ご家族が通院介助に行けない場合は施設職員で通院介助を行っている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は母体法人の協力医を主治医としている。協力医から週2回の訪問診療、必要時に協力歯科医への受診、緊急時には母体法人の訪問看護との連携もある。日頃の健康管理は併設の小規模多機能型居宅介護の看護師に相談できる体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	細かな気づきや体調の変化など看護師に相談や報告をし指示を仰ぎ、医師にも連絡できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに対応できるよう連絡を取り合っている。また、退院時には医療関係者や本人、ご家族等と話しをし、退院後の過ごし方や注意点を情報共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針を説明し、意向の確認をしている。また、重度化した場合には速やかにご家族に報告し再度説明、意向の確認をし、主治医、看護師と24時間体制で経過観察ができるようしている。	要望があれば看取りを行う方針である。契約時に看取りの指針を説明し書面にて事前確認をしている。重度化した際には関係者で話し合いを行い、書面による同意の下、「対応指針」に基づき訪問看護ステーションと連携して適切な支援を行う考えである。過去に看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	職員全員が対応できるよう、事業所内研修やマニュアルを基に月に1回は実践力になるよう空き時間や申し送り時に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署にも協力して頂き、年に2回は訓練を実施し、指導、助言をいただいている。	消防署指導のもと、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者も参加して併設小規模多機能事業所と合同で行う他、実践的な自主訓練もある。ハザードマップでは土砂災害警戒区域で隣地も罹災した経緯もあり、地域協力・備蓄整備等を踏まえた事業所のBCP（業務継続計画）を策定中である。	

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いや、接遇マナーの研修を行い、一人ひとりにあった言葉かけや対応をするよう努めている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者に対する言葉かけも不適切な対応には指導や気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気作りに努めている。利用者・職員間の距離感の取り方にも配慮した柔軟な関係作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションをとっていく中で自己決定ができるような対応、言葉かけを意識するよう職員全員で努めている。希望や願いを言い現わすのが困難な利用者に対しては、表情や反応をみてできる限り引き出せるようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大切にし、無理強いをさせないよう傾聴することを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望や好みを尊重し、馴染みの美容室などがあれば、ご家族にも協力してもらい希望に添えるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嫌いな食べ物など聞き、別メニューでの対応や、準備や片付けをできる範囲で行ってもらっている。	献立は母体法人の栄養士が立て、外部業者から届いた食材を職員が調理して提供している。利用者は片付け等、役割に応じた手伝いを行い、事業所の畑で収穫した野菜が食卓に上ることもある。麺類が好きな利用者のためにうどんをゆでたり、利用者と雛祭りのお寿司を作ることもある。	

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎食後に記録をとり食事摂取量や水分摂 取量の把握をしている。また、日中だけ でなく夜間に希望があればお茶を用意し 水分量を確保している。また、月に1回 管理栄養士が施設をまわり、管理してい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨き、口腔ケアの声かけ、一 人ひとりに応じた仕方の対応をし清潔保 持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	立位保持が可能であればできる限りトイレ で排泄をしてもらっている。排泄表の 活用排泄間隔を把握し、プライバシーや 自尊心に配慮しながら支援している。	出来るだけトイレで排泄してもらうよう に排泄記録表等で各人の排泄パターンを 把握しトイレ誘導をしている。夜間は紙 おむつだが日中はトイレ対応としたり、 夜間のみポータブルトイレ対応とする 等、状態に応じた自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表で状況を把握し、運動や水分摂取 量、必要に応じて乳製品の摂取で便秘に ならないよう予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	その日の体調や希望で入浴を楽しめるよ う午前と午後や、同性者からの介助など 柔軟に対応している。	週2回の午前浴が主だが、利用者の体調 や入浴習慣に合わせ好みの湯温や時間 等、柔軟に対応している。利用者の体の 負担を考慮し、シャワー浴や足浴で対応 することもある。据え置き式家庭浴槽で の個人浴だが、寛げるように泡の出る入 浴剤や肌に優しい化粧水・保湿剤も活用 している。	

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	シーツ交換や布団を干したり、寒い日に毛布を使用したり、空調管理をし、常に気持ちよく安心して休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師、看護師より処方薬の説明をもらって理解できている。誤薬がないよう細心の注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を把握し、日々の表情などから楽しみにされていることや気分転換になるようなことをできる限り支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外の支援はできないことが多かったですが、ドライブや近所の野菜売り場やスーパーなど出かけられるよう努めている。	現在はコロナ禍で外出自粛だが、事業所周围の散歩・菜園での野菜収穫・隣接ユニットとの交流・近隣の野菜市場での買物や音戸の瀬戸にツツジ見物等、季節の外出行事を通し普段は行けないような場所で非日常を楽しんでいる。又家族との一時外出等、個別外出支援にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人やご家族と話し合い、お小遣いやお金を所持してもらっている。希望があれば買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 I)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>要望に応じて、手紙や電話のやり取りができるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>フロアの共用スペースは気持ちよく過ごせるよう清潔に努め、季節感のあるレイアウトにしている。</p>	<p>菜園で収穫した野菜や正月・七夕等、行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品で季節の移ろいを感じられる様配慮している。リビングは白を基調とした洋風の設えで海も見渡せる開放的な空間である。そこは全居室の扉に面しており中央の食卓を挟んで交流を楽しめる配置となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>フロアは日当たりがよく、テレビやカラオケ、体操など楽しまれている。居室で読書をされたり、気の合う利用者同士が居室内やフロアで談笑されたり自由に過ごせる空間づくりをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使用していた物、思い入れのある物を自由に持ち込め、居心地がよく安心して過ごせれるようしている。</p>	<p>居室にはベッド・クローゼット等が備え付けられ、テレビ等、使い慣れた物や振動健康器具等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によっては夜間排泄時にポータブルトイレの設置やエアコンの風向を考慮してベッドの配置を調整している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者一人ひとりの身体能力に合わせ、利用者、家族と相談し家具の配置をしている。本人の残存機能を生かしつつ安全に配慮した環境づくりを行い、変化があった場合には都度話しあい、環境整備を心がけている。</p>		

V アウトカム項目(蛍の家 I) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	4月に全体ミーティングをし、職員全員で介護理念をつくりました。朝・夕の申し送り時に唱和することで理念の意識付けをし、利用者の訴えや、利用者の世界観を否定せずに傾聴することを努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウィルス・インフルエンザウィルス感染の為、外出機会が減り、交流ができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流や地域貢献はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウィルス・インフルエンザウィルス感染の為、今年度も運営推進会議ができていない。関係者に資料送付、職員間で会議内容の確認をしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	呉市倉橋支所の担当者、介護相談員の方と話しあい、助言をいただきサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所研修を行い、身体拘束拘束による弊害を理解し意識付けをしている。玄関の施錠は日中行っておらず、敷地内の施設を自由に行き来出来る様にしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>事業所研修を行い虐待の種類、行為を学び虐待が見過ごされることのないよう一人ひとりが注意している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度については事業所研修を行い職員全員が理解するよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には利用者、ご家族にしっかりと説明をし、理解を得られてから契約を行っている。不明や疑問点があれば気軽に聞いていただけるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時や面会が難しい時は積極的に電話連絡をし意見や要望を伺い運営に反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎週月曜日の法人全体の朝礼で各部署からの提案、意見を取り入れている。事業所内での朝・夕の申し送り時、それ以外にも必要に応じて個別で意見や提案を聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自向上心を持って働けているかを知るために、スタッフ間での開けた環境作りをし、個人個人の条件に応じていけるように努めている。必要に応じて個別にミーティングができる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修へ積極的に参加できるよう努めている、また要望があれば研修参加できる環境をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	オンライン研修への参加、外部研修での意見交換や情報収集を行い、質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始までに生活歴や要望を聞き、不安をできる限り取り除けるようにしている。また、職員全員がそれを把握し本人が安心できるための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族等の思いや不安を取り除けるよう十分に聞く時間を設け関係づくりに努めている。また、早急な対応を求められた場合にも柔軟に対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	併設されている事業所やその他のサービスの説明も含め、必要なサービスを提供できるよう柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者一人ひとりにあったコミュニケーションを図り、できることを見極め、気持ちを理解できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要に応じて連絡させて頂いたり、月に一度、蛭便りを送付し、日々の様子を知っていただけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出支援はできなかったが、面会は希望があれば受け入れていた。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々のレクリエーションやイベント等で交流の機会を設け、無理のない関わり合いや、併設する施設も気軽に行き来できるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してもご家族の相談や希望によりそえるよう、他のサービスの利用も積極的にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中から一人ひとりの思いや希望を聞き、表情などからも声なき声をききとれるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族からこれまでの生活を可能な範囲で伺い、その人らしく、これまで通りの生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの過ごし方や何がしたいかや、表情をみたり、できる限りのことを無理なく体調を考慮しながらその人の能力を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議にて要望を聞き取り、本人や家族の要望、思いを尊重し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝・夕の申し送り時で利用者の状態や変化、細かい気づきを報告し、職員全員で情報共有している。また、変化があれば都度介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々ニーズに沿った支援を本人、ご家族等で積極的に話しあい、柔軟に対応できるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	外出支援がなかなか出来なかったが、買い物支援でできる限り地域を利用するようになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体法人の医療機関だけでなく、適切な医療を受けられるよう、本人やご家族の要望を聞き納得した上で適切な医療をうけられるよう支援している。ご家族が通院介助に行けない場合は施設職員で通院介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	細かな気づきや体調の変化など看護師に相談や報告をし指示を仰ぎ、医師にも連絡できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに対応できるよう連絡を取り合っている。また、退院時には医療関係者や本人、ご家族等と話しをし、退院後の過ごし方や注意点を情報共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針を説明し、意向の確認をしている。また、重度化した場合には速やかにご家族に報告し再度説明、意向の確認をし、主治医、看護師と24時間体制で経過観察ができるようしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	職員全員が対応できるよう、事業所内研修やマニュアルを基に月に1回は実践力になるよう空き時間や申し送り時に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署にも協力して頂き、年に2回は訓練を実施し、指導、助言をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いや、接遇マナーの研修を行い、一人ひとりにあった言葉かけや対応をするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションをとっていく中で自己決定ができるような対応、言葉かけを意識するよう職員全員で努めている。希望や願いがを言い現わすのが困難な利用者に対しては、表情や反応をみてできる限り引き出せるようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大切にし、無理強いをさせないよう傾聴することを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望や好みを尊重し、馴染みの美容室などがあれば、ご家族にも協力してもらい希望に添えるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嫌いな食べ物など聞き、別メニューでの対応や、準備や片付けをできる範囲で行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食後に記録をとり食事摂取量や水分摂取量の把握をしている。また、日中だけでなく夜間に希望があればお茶を用意し水分量を確保している。また、月に1回管理栄養士が施設をまわり管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨き、口腔ケアの声かけ、一人ひとりに応じた仕方の対応をし清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	立位保持が可能であればできる限りトイレで排泄をしてもらっている。排泄表の活用排泄間隔を把握し、プライバシーや自尊心に配慮しながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表で状況を把握し、運動や水分摂取量、必要に応じて乳製品の摂取で便秘にならないよう予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	その日の体調や希望で入浴を楽しめるよう午前と午後や、同性者からの介助など柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	シーツ交換や布団を干したり、寒い日に毛布を使用したり、空調管理をし、常に気持ちよく安心して休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師、看護師より処方薬の説明をもらって理解できている。誤薬がないよう細心の注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を把握し、日々の表情などから楽しみにされていることや気分転換になるようなことをできる限り支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外の支援はできないことが多かったですが、ドライブや近所の野菜売り場やスーパーなど出かけられるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人やご家族と話し合い、お小遣いやお金を所持してもらっている。希望があれば買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(蛭の家 II)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望に応じて、手紙や電話のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの共用スペースは気持ちよく過ごせるよう清潔に努め、季節感のあるレイアウトにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアは日当たりがよく、テレビやカラオケ、体操など楽しまれている。居室で読書をされたり、気の合う利用者同士が居室内やフロアで談笑されたり自由に過ごせる空間づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた物、思い入れのある物を自由に持ち込め、居心地がよく安心して過ごせるようしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者一人ひとりの身体能力に合わせ、利用者、家族と相談し家具の配置をしている。本人の残存機能を生かしつつ安全に配慮した環境づくりを行い、変化があった場合には都度話しあい、環境整備を心がけている。		

V アウトカム項目(蛍の家 II) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム蛍の家

作成日 令和6年3月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の資料が関係者への質問依頼等なく、ワンパターンな資料になっており、意見・提案が出しにくい。もっと具体的な資料作りをしていくよう努める。	コロナウイルス等の感染症対策をとりながら運営推進会議を行える環境をつくり、意見・提案がしやすい資料作りをする。	日々の細かいイベント・ヒヤリハット等を資料に入れ、意見等を記入できる欄をつくる。	4月の運営推進会議まで
2	35	業務継続計画を策定し、事業所内研修をする。	業務継続計画を3月始め頃までには策定し、職員全員で研修する。	業務継続計画の外部研修に参加できていない職員にも研修内容を伝え、事業所内研修をする。	4月まで
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。